

# 川口ひろし 新聞

<http://www.kawaguchi-hiroshi.net>

島本町東大寺 3-65-1 TEL.961-0413 FAX.961-0111



## 小さな自治体の良さを生かせ

フットワークの良さや縦割りの行政の弊害を排した仕事、職員の名前と顔の見える役場などが、小さな自治体の良さです。

そのような良さを欠いていれば、住民と行政の距離が遠いままでは、小さな自治体が生きていく意味はあまりありません。

そのためにも、あらゆる情報について積極的な発信と受信の仕組みが必要です。情報を共有し、共感・共鳴していくためには、積極的な広報とともに積極的な広聴が大切です。

タウンミーティングや駅前町政報告などを行い、住民と行政が顔の見えるの距離・近さでおたがいに情報を発信し受信することによる情報の共有により、住民と行政の協働がはじまります。またパブリックコメント制度などを活用し、インターネットを利用した24時間アクセスできるような環境作りも必要です。

そして、あれもこれもではなく「まちづくり」の明確なコンセプトをもとにした「尺度」「物差し」による優先順位を住民とともに決めていく仕組みが必要です。

島本町の良さは交通の利便性と自然に恵まれた住環境の良さ、人のぬくもりです。

そして人のぬくもりを大切にしたコミュニティの復活により、安心して安全なやさしさにあふれたのまちづくりが可能です。

「小さな自治体の良さを生かせ」「元気を取り戻せ」「汗と顔の見える行政」、そして「現場主義」が私のキーワードです。

## 元気を取り戻せ

自治体間競争が叫ばれています。人口の減少により地域は元気を失います。

自主財源である町税の減少だけでなく、地元商業者にとっても大きなダメージを与えます。地元商業者が元気を取り戻さなければ、地域は元気になりません。

教育環境の整備や子育て環境の改善、住みやすさ、住環境の良さを追求し、人口の減少に歯止めをかける必要があります。

日本全体の人口が減少するなか、地方自治体は人口問題についても競争の時代に入りました。

そして、地域通貨の発行などにより、地域内でモノとカネを動かし地域経済を活性化させましょう。

地域の活性化するためには情報を動かし、人を動かし、モノとカネを動かすことが必要です。

## 汗と顔の見える行政

多様化する住民のニーズを的確に把握するためにも、各種の審議会や委員会を平日の夜や土曜日、日曜日に開催することが必要です。そのことにより、多くの方に行政や地域に関心を持っていただき、積極的に関わっていただけます。

また、汗と顔の見える行政を行うことによって行政と住民の守備範囲が明確になり、そこから行政と住民の協働がはじまります。

そのためには、率先垂範と実行力でして汗と顔の見える行政を行わなければなりません。

### 「役場の常識は住民の非常識」であってははいけません

行政は最大のサービス業で、住民がまちの主役です。

「国の常識は地方の非常識」という本があります。「役場の常識は住民の非常識」であってははいけません。前例踏襲主義にとらわれている限り、何も変えようとしないうし、何も変わりません。

住民のしあわせにとってどうなのか、住民の目線にたって住民本位の役場でなければ、役場の常識は住民の非常識のままです。役場の常識を住民の常識にするためには、民間人の登用などにより風通しのいい役場でなければなりません。

そしてスリムでスピードのある役場でなければなりません。

## 誇りと愛着の感じられる町

島本町に住んでいること、島本町民であることを誇りと愛着を持てるような町でなければ、地域のために汗をかくことに誇りを感じることはできません。

島本ブランドを全国に発信しましょう。

## 生涯学習のまちづくり

島本町の財産は、恵まれた自然環境とそこに住む人たちの知識・技能・技術です。それらの知識・技能・技術を持った人たちを講師に招き、知識・技能・技術を再生産していく仕組みを作りましょう。人材は人財です。

## プロフィール

1950年（昭和25年）2月16日、島本町広瀬に生まれる

島本町立小学校、島本町立中学校、大阪府立春日丘高校、同志社大学を卒業

東通企画でテレビ番組・ビデオパッケージ・イベントの制作と演出を担当

島本町立第二中学校元PTA会長、大阪府立島本高校元PTA会長

島本町議会議員（現在2期目）

放送芸術学院非常勤講師

保護司

ボーイスカウト島本第1団 / 団委員長

テレビ・ディレクター（フリー）

NPO法人・国際協力ネットワーク関西 / 理事

行政書士（登録準備中）

大阪府立島本高校学校協議会委員